

# 陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No. 45 2010.12.15

第5号 (24年9月号) から

「陽気」は、昭和24年4月の創刊、今年で61年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。



新作落語  
お巡りさん  
陽気亭喜樂

お笑いを一席申し上げます。終戦後いちばん変りましたのが何かと申しますとお巡りさん。以前は怖いもの一つに数えられまして、泣いてる子供でも、お巡りさんと呼んで来るぞと嚇(おそ)しますと一遍に泣き止んだぐらいで、その頃は姿も厳(かた)めしく腰にはこう剣物を吊りまして、その故か一寸物を訊ねましても剣もホロロ、直ぐに剣突くを喰(く)わされましたもので、

「一寸お訊ね致しますが」何かね」  
「あの才刑務所の方へ行くにはどう参ったよろしいでしょうか」ウム、刑務所へ行きたくないやア、何か物を盗め！」  
まさかそれほどでも御座いませんでしたが、ただ今では犯人を追跡している場合でも決して乱暴な言葉は使いま

巡「おや、八さんかいな」  
八「昨夜はまたえらいお世話なんで」  
巡「本当に八さん、いい加減に夫婦喧嘩が止められんか」  
八「さあ、自分でもつくづく感心してますのや、何でこんなに飽かずにようはずむのやろう？」  
巡「そら、我が出て来るから、喧嘩が始まるのや」  
八「すると夫婦喧嘩にもやっぱり季節があるんで？」  
巡「何でや」  
八「蛾(が)の出るのは夏ですさかい」  
巡「虫の蛾と違う。八さんは文字の事は余り知らんな」  
八「モジぐらい知ってます、下関の向かいですがな」  
巡「その門司やない。僕が訊いてるのは、八さんは学校どこまで行った？」  
八「私は小学、中等、大学」  
巡「えっ、大学？ 八さんは学士さんか」  
八「そんな、人を嘲弄(ちやうろう)したらいかん」  
巡「でも、小学中等大学？」  
八「はつきり聞きなはれ、小学中途退学や」  
巡「そんなら、八さんには学があるとは言えん」  
八「いいえ、額なら安物やが欄間(らんま)に掛ってます」  
巡「難儀(なんぎ)やな、あのネ八さん、人という字をよく御覧、両方からもたれ合うてる」  
八「ホンにもたれ合うてる」  
巡「その人が動くを書いて働く。働くとはハタをラクさす事や」  
八「そんなら、自分だけ楽をしたら？」  
巡「そら、自堕落(じだつらく)やがな」  
八「成程、成程」  
巡「つまり、夫婦と言うのも互いにもたれ合い助け合って初めて仲(な)よう巧(たく)く行ける。現(いま)にほら、横町のお豆腐屋さんの新婚夫婦、僕は巡回(くわんかい)の度に感心してるが、八さんはどう思う？」  
八「流石(りやうじ)に商売柄(しょうばいがら)マメに働いてますワ」  
巡「マメに働いて、作るお豆腐は四角(よしかた)でも、夫婦仲(な)は至(いた)って円満(えんまん)で少しも角(かど)と言うものがない」  
八「そのはずで、二人は恋愛結婚(れんあいけつこん)ですがな。以前は人目を忍(しの)ぶ仲(な)で、そこは堅(かた)いように見えても柔(な)らかいのがお豆腐屋(とうふや)さん。これが本(ほん)当(とう)の豆腐(とうふ)で(遠(とほ)くて)近い(ちか)いは男女(なんにょ)の仲(な)」  
巡「そんな阿呆(あほう)な」 (後略)

# 信仰例話 (道友社刊『真実の道』より)

「見舞に行かれる時田は私なのです。もう病気はすっかり神様に助けて頂きました。それで皆さん、私は全快祝をしたいのですが、みなここへお座り下さい」

「そう言ってそこで皆でお祝いをしました。」

「や、あって、みなが帰ると言われて、下駄をはいて「ばたく」と帰る下駄音で目が覚めました。」

「即ち、仮死の状態から生きかえりました。」

「ところが、その下駄音というのは、恰度その時、部屋を出た看護婦が、スリッパをバタバタとさして行く足音でありました。」

「それから私はだんくよくなって、退院することが出来るようになりました。私はその夢を牧師にお話しして、」

「聖書に何か関係のあることはありませんか」

「とたずねましたが「ありません」と言われました。」

「私は病中にて天理教を知り、かつ助け貰いました。」

「やがて私は教校別科に入学すべくお地場に帰らして頂き、広大無辺の神恩に御礼を申し上げ、別科生として教校の庭



に立った時、私は、血液の逆流するのを覚えました。それは、私が病中見た夢と、このお地場の景色とが、全く一致するからであります。ご承知の通り、お地場は阿蘇山の噴火口の如く、大和盆地にあるため、四面山を以つ

好評につき第2弾!  
**2月発刊**

## お道の人の とっておきの話2

朝席・夕席に最適です



四六判・208頁 予価1,260円(税込)

図書出版 **養徳社**

振替00990-3-17694 ☎(0743)62-4503  
養徳社 検索 http://yotokusha.com/

「陽気」創刊60年記念出版

## 人生二終なし

じんせいにおわりなし

—父 柏木庫治を語る—

- 三人の兄妹によるてい談
- 「陽気」掲載記事
- 柏木庫治小伝

定価=1,260円(税込) 送料200円

大好評! 再版出来!

「陽気」読者講演会CD

## 笑いと健康

「笑い」は糖尿病患者の血糖値を下げ、絶妙な「笑い」のモアと世界遺産の笑い

**村上和雄** (筑波大学名誉教授)

1枚 定価1,260円(税込) 送料150円

電話 0743-62-4503 養徳社 FAX 0743-63-8077

「どんな処へにい掛かるも皆入り込んでの自由と聞かし置こう。」

(おさしづ 25・12・17)

「親里で神恩に浴しつつ、夏冬の六カ月間、手に手をとって修養にいそしむべき別科の生徒であったのです。」

「私は、この不可思議な霊の導きにより、益々信仰の堅くなり行くのを覚えました。」

「みちのとも 昭和四年五月号」

「灯台下暗し」の言葉通り、身近にある大事なことが気づき難いと痛感した。」

「……某出版社が毎年新語を募集しているが、今年の大賞の中で思わずうなった、中三女子作の一語。【ざる聞き】人の話を聞いていて、そのときは聞いていたはずなのに、すぐに忘れてしまうこと。——私も、私の周囲もそんな人ばっか(笑)。」

「……今年も残すところ後半月ほどになりました。皆様には「陽気」の上でいろいろとお世話になり有難うございました。来年は創刊62年になります。「陽気」の内容をより充実したものにしたいと思っております、今後とも皆様のご意見ご要望をお聞かせください。来年もどうぞよろしくお願い致します。」

「この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用ください。お願いします、お願い申し上げます。」

養徳社

養徳社 よもやま話